

令和七年十二月度  
御報恩御講

ぎ じょうぼう ご しょ  
『義 浄 房御書』 文永十年五月二十八日 五十二歳

あいかま あいかま こころ し  
相構 へ 相構 へ て心の師 と は な る と

こころ し ほとけ しる たま  
も心を師とすべからずと仏は記し給ひし

ほけきょう おんため み す いのち  
なり。法華經の御為に身をも捨て命をも

お ごうじょう もう これ  
惜しまざれと 強盛 に申せしは是なり。

(御書六六九<sup>ぎ</sup>——一行目～一二行目)

■ 強調 ・ 確認 ■

人の心というものは、流されやすく良くも悪くも周りの影響を受けやすいものです。

大聖人様が『西山殿御返事』に、

「うつりやすきは人の心なり。  
善悪にそめられ候」  
と仰せのごとくです。

また『聖愚問答抄』に、  
「人の心は水の器にしたがふ  
が如く」

ともありますように、入れら  
れた器によって水がその形を  
変えるように、人の心も周り  
のものに影響を受けて移ろい  
やすく変わりやすいものです。

ことわざにも「朱に交われば赤くなる」とあります。これも良くも悪くも周りの影響を受けやすいことの例えです。

自分の心に従って生きるという人も大勢いらっしゃいますが、このような移ろいやすく定まることのない自分の心に従っていてはいけないのです。

自分の心に従うということは、わがままで自分勝手な信心に陥りやすくなってしまうです。

そうならないためにも私たちの心をしっかりと定めることが必要になります。

『妙密上人御消息』には

「麻の中の蓬、墨うてる木の  
自体は正直ならざれども、自  
然に直くなるが如し。経の  
まゝに唱ふればまがれる心な  
し」

と仰せのように、曲がりなが  
ら成長する蓬も真っ直ぐな麻



と共に居れば真っ直ぐになる  
こと、曲がった木材も墨線を  
打てば真っ直ぐ製材できるこ  
とに例えられ、流されやすい  
人の心も、大聖人様の教えの  
ままにこの御本尊様を信じ拝  
していくことでしっかりと定  
めていくことができます。

また反対に定める対象を誤ってしまふとそれが悪縁となり、自分の心に悪影響を及ぼしてしまいます。

そして御本尊様を信じて修行していく姿勢・精神として本日拝読の御文にもありました「不自惜身命」があります。

この「身命を惜しまず」について御法主曰如上人猥下は、「わけもなく命を無駄にするという意味ではなく、我ら人間に与えられた寿命という尊い時間を広布のために無駄なく使っていくということです。

つまり、その尊い時間を大事にして折伏を行じていくということでもあります」

また、「我々に与えられた尊い時間を、どれだけ仏様のために、広宣流布のために、一切衆生救済のために使えるかということなのです」と御指南であり、

体や命を惜しまないというのは限りある大切な自分の時間を御本尊様のために使っていくこと、日頃の勤行・唱題や寺院の行事への参詣、そして法を弘めて人を幸せに導いていくための折伏にその時間を使っていくということです。

自分の心に従うわがまま  
自分勝手な信心ではなく、私  
たちを正しく導いてくれるこ  
の御本尊様にしっかりと心を  
定め、貴重な時間を信心修  
行・折伏のために少しでも  
使っていけるよう日々心がけ  
精進して参りましょう。